

## 令和4年度 第1回新潟県文化振興有識者懇談会（概要）

【日 時】令和4年9月20日（火）14:00～16:00

【場 所】新潟県自治会館本館 201 会議室

【出席者】小松委員（座長）、飯島委員、大浦委員、大島委員、大滝委員、小熊委員、坂野委員、菅野委員、杉浦委員、早福委員、森沢委員（岩上委員は欠席）

### 1 開会

### 2 あいさつ（観光文化スポーツ部 妹尾部長）

### 3 委員自己紹介

### 4 座長選出

- ・座長に小松委員が選出された。
- ・座長が座長代理に飯島委員を指名した。

### 5 意見交換

【資料1：令和4年度 新潟県文化振興有識者懇談会の進め方】

【資料2：文化を取り巻く現状・課題】

- ・資料1及び2に基づき事務局から説明

### 《資料説明に対する質疑》

（委員）

- ・新潟県文化振興財団と新潟県の一体化というのは、具体的にはどういう意味か。

→（事務局）

- ・県から財団に対し、今後の県の文化振興を引き続き充実したものにしていききたいこと、また財団が持つノウハウや関係者とのネットワークを長く維持していききたいことを説明し、財団での意見交換を経て、財団は廃止し、県との一体化に向けて手続きを進めているものである。

（委員）

- ・県と財団とが一体化し、そしてさらに発展させるため、財団がこれまで蓄えてきた様々な資産、ネットワークなどを県の中に根付かせていくこと、そして人材育成についても配慮してほしいことを県に伝えている。

## 《委員意見》

### 1 県民の文化活動・鑑賞機会について

- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、生のパフォーマンスがすごく減ってしまったことは、県民の文化活動にとって非常に大きいことだと思う。
- ・新潟県は広く、生のパフォーマンスをどこにでも提供するの難しいが、財団との一体化後も、アウトリーチ活動をもっと活発にしてほしいと考えている。

### 2 文化活動を担う人材について

- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響が減り、順調に様々なプログラムが実施される段階になったときに、それを支える運営スタッフをどう確保するか、それまでどうその人たちの力を落とさずに保ち続けるかが大事なことだと思う。
- ・県庁の中で、意欲と能力と経験を持ったスタッフを育てることが課題だと思う。
- ・舞台芸術などの発表の機会を数多く設けることは、企画側、運営側、技術スタッフも含めて、その育成という意味で非常に有効だと思う。
- ・地域の祭りや民俗芸能などの担い手を、特に新型コロナウイルスの感染収束後どう確保し、継承していくかを考えていかなければならない。また、担い手を増やしていく方法として、伝承に生かせるような映像を撮って活用するというものもあるが、今まで人と人とが直接的な触れ合いの中で継承してきたものをどうするかということも考えていかなければならない。

### 3 子どもの文化活動について

- ・子どもたちが文化に触れる体験を学校の中に限定せず、もう少し幅広く提供することを考えてもよいと思う。
- ・特に地域の文化は、小さいころの経験、記憶が大変重要であり、小さいうちに触れさせる機会を確保し、その記憶や経験から継承につなげていくということが必要であると感じている。
- ・文化庁が進める子どもの文化芸術活動を地域で支えていく「地域文化倶楽部」の仕組みは、基礎自治体だけで対応できることではなく、その連携をどう作っていくのか県の役割が大きいと思う。

### 4 文化施設の活用について

- ・博物館等の利活用を促進するため、デジタル化やそれらを周知する取組を進めることが必要だと思う。
- ・令和4年の博物館法改正により、博物館事業の見直しとして、地域の多様な主体との連携や協力がうたわれているため、様々な団体と連携していくことが必要だと思う。

## 5 文化活動・鑑賞機会のデジタル化について

- ・オンライン配信は、アマチュアの団体など自前では難しいところが多いと思うので、ノウハウを持った人材や、講習会があればいいと思う。
- ・コンテンツをできるだけ英語など多言語化していくための予算や、そのための人材育成は、新潟県の文化コンテンツの世界発信につながると思うので、重要な要素と感じている。
- ・オンライン化が一気に進んだことは、経済的に難しかったり、難病を抱えるなど、今まで舞台芸術やパフォーマンスに触れることのできなかった方にとって、舞台芸術等に接する機会につながったと思う。
- ・民俗芸能のインターネット動画などの活用は普及、広報という点で非常に良いことであるが、やはり生で見るのとは全然違う。動画を見た人を実際の現場にいざなっていくような方法も、同時に考えていかなければならない。
- ・いろいろな文化活動の実施の仕方について、リアルとオンラインを併用したものが増えているが、文化を受ける側のデジタル格差が大きくなっていると感じる。高齢者に関する施策と連携し、デジタル化の底上げが大事ではないか。
- ・YouTube などを見る習慣のない高齢者などが、デジタル格差の影響などにより、文化との間に距離が出てしまうことについて、今後考えていかなければいけない。

## 6 文化を活用した地域活性化について

- ・文化を支えていくには、経済の裏付けがいる。経済と文化が上手く絡んでいくような地域づくりをしていく必要があるだろうと感じている。文化とその地域の経済が両輪で動くような仕掛けが必要なのではないかと感じている。

## 7 その他

- ・観光面では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、昨年オンラインツアーが流行ったが、今年状況では、リアル観光が求められていると感じている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況下で、芸術文化は不要不急のものだとされてしまったところもあるが、必ずしも鑑賞の機会だけでなく、社会にとって役に立つ取組を提供していくことで、芸術文化は不要不急ではなく本当に必要なものだという認識が醸成されていくと思う。
- ・地域にとっては、祭りなどで人が集まるということがなくなってしまうと衰退につながっていくので、人が集まることは悪いことではなくて良いことなんだということを文化の側面からも発信していく必要があると思う。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大や人口減など目の前の課題を一つずつ解決していった延長線上にある未来を策定するのではなく、まずどうあるべきかを先に考え、それを達成するために私たちは今何をすべきかを考えるべきではないかと思っている。今後はそういう形でこの懇談会が進められていくことを期待している。